申請者：湧口 清隆

論文題目　公共財供給の不確実性に基づくオプション価値と自発的協力の可能性
－住民協力による地域公共輸送サービス維持の可能性－

審査員　根本 敏則
杉山 武彦
谷本 寛治

本論文は、公共財の供給の不確実性に注目して、不確実性を回避・軽減することに見いだすオプション価値と公共財供給に向けた自発的協力との関係を明らかにすることを目的としている。著者は、オプション価値の理論と公共財供給に向けた自発的協力の可能性に関する理論を整理、検討すると同時に、2つの理論を結びつけたモデルを構築して、公共財の供給に自発的により多くの協力を行う危険回避的な個人は、最大の協力意思額を表わすオプション価格と、自発的協力の結果得られる厚生改善の期待値がともに大きくなり、その差として定義されるオプション価値が小さくなる傾向が見られるという結論を導き出した。

本論文の評価すべき貢献として、以下の3点が指摘されるであろう。第1に、これまで未整理のまま論じられることが多かった公共財のオプション価値の理論に関して、その定義、符号や大きさの決定要因などを理論的に整理、検討している。第2に、公共財供給の不確実性の問題として、オプション価値を公共財供給に向けた自発的協力の可能性と結びつけ、オプション価格と自発的協力の大きさ、厚生改善の期待値、オプション価値の関係を示している。第3に、沿線住民が協力して路線バスの維持存続に努める津軽地方の3集落を対象に質問票調査を行うことによって、具体的事例においてオプション価値を導出しようとしている。特に、第2、第3の点は、既往研究には見られない著者独自の着眼点である。

一方で、本論文にはいくつかの問題点や課題も残されている。第1に、2つの理論を結びつけたモデルにおいて、より普遍的な帰結を導き出すことに主眼がおかれた結果、自発的協力や大きなオプション価格が生ずる個別具体的な条件が十分に検討されていないといえる。第2に、事例調査において、質問票調査の制約上やむを得ない部分もあるが、路線バス存続に関し、不確実性以外の要因によって起こりうると考えられる自発的協力の可能性、例えば互恵性や（不純な）利他主義などの要因を十分に峻別、考慮できていないなどである。

しかし、以上のような課題が残されるものの、本論文は著者の独創的な視点からの理論的、実証的研究であり、かつ地域公共交通のあり方に関し問題提起を行った点で時宜を得た研究ともいえる。よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の著者が一橋大学学位規則第4条第1項の規定に準じた取扱いにより一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。